

気候情報

2017年1月の日本の天候

- 月平均気温は沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高かった
- 中旬から下旬前半にかけては全国的に寒気が流れ込み、日本海側を中心に大雪となった
- 西日本では日照時間がかなり多かった

1月の天気概況

上旬と下旬後半は冬型の気圧配置が続かず、寒気の南下が弱かったため、気温が顕著に高くなった日があった。一方、中旬から下旬前半にかけては日本付近に寒気が南下し、冬型の気圧配置が強まった。下旬前半は西日本を中心に大雪となった。

上旬：冬型の気圧配置が弱く、寒気の南下が弱かったため、全国的に気温の高い日が多かった。沖縄・奄美では旬平均気温が年差+3.3°Cとなり、1961年の統計開始以来1月上旬として1位の高温となった。低気圧や前線の影響も受けにくかったため、北日本太平洋側を除き日照時間が多かったが、7日から9日にかけては低気圧が発達しながら東シナ海から関東の東へ進み、東・西日本太平洋側を中心にまとまった雨や雪となった。特に、河口湖（山梨県）では8日に42 cmの積雪となるなど、関東甲信地方では内陸部を中心に大雪となった。

旬平均気温は、西日本と沖縄・奄美でかなり高く、北・東日本で高かった。

旬降水量は、北・東日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。一方、東日本太平洋側と西日本では多かった。

旬間日照時間は、北日本日本海側と東・西日本、沖縄・奄美で多かった。北日本太平洋側では年並だった。

中旬：冬型の気圧配置が強くなり、全国的に寒気が流れ込んだため、日本海側では雪の日が多く、太平洋側では晴れた日が多かった。特に14日から17日にかけてはさらに強い寒気が南下し、日本海側では東北地方から山陰にかけて大雪となったほか、広島（広島県）で15日に19 cmの積雪となるなど、太平洋側でも大雪となった所があった。このため、各地で交通障害や農作物・農業施設等への被害が発生したほか、落雪や除雪作業中の事故による人的被害が発生した。

旬平均気温は、北・東・西日本で低く、沖縄・奄美で高かった。

旬降水量は、東日本日本海側で多かった。一方、西日本太平洋側では少なかった。北日本と東日本太平洋側、西日本日本海側、沖縄・奄美では年並だった。

旬間日照時間は、北日本日本海側と西日本で多かった。一方、沖縄・奄美では少なかった。北日本太平洋側と東日本では年並だった。

下旬：旬の前半は、22日に北日本を低気圧が通過した後、冬型の気圧配置が強まり、全国的に強い寒気が流れ込んだ。特に西日本日本海側では智頭（鳥取県）

で24日に111 cmの積雪となるなど大雪となり、鳥取県などで多数の車両が立ち往生した。旬の後半は冬型の気圧配置が緩み、日本付近には南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、全国的に気温が高い日が多かった。29日は西日本、30日は東日本を中心に、日最高気温が20°Cを超えて年より10°C以上高くなった所もあった。

旬平均気温は、東日本と沖縄・奄美で高く、北・西日本で年並だった。

旬降水量は、北日本太平洋側で多かった。一方、北日本日本海側と東日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。東日本日本海側と西日本では年並だった。

旬間日照時間は、東日本太平洋側と西日本でかなり多く、沖縄・奄美で多かった。一方、北日本太平洋側では少なかった。北・東日本日本海側では年並だった。

1月の気候統計

月平均気温：沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高かった。北日本では年並だった。

月降水量：沖縄・奄美でかなり少なく、北日本で少なかった。東・西日本で年並だった。

月間日照時間：西日本でかなり多く、北日本日本海側と東日本で多かった。北日本太平洋側と沖縄・奄美で年並だった。

(気象庁観測部情報管理室)

1月の記録（1位更新のみ）

- ・月平均気温高い方から（°C）
西表島 19.9
- ・月降水量少ない方から（mm）
留萌 33.0 宮古島 30.0

2017年1月の年差（比）図

